



## ほっと 30 号

ホームページ URL  
<http://do-ren.ciao.jp>



### \* 書面総会という取り組みについて

北海道知的障がい児・者家族会連合会 会長 安田 由美

今年は東京オリンピックの年ということで期待に満ちて幕開けしたものの、新型コロナウイルスの影響で市民生活が大きく変わってしまいました。

皆様も外出自粛など様々な制限があったことでしょう。施設事業所を利用する子供や家族も職員の方と一緒に、食事前の消毒や外出、外泊制限、事業所の休止など、状況がわかりづらいうち、がんばってすごしています。

道内の新規感染者の発生も続き、もうしばらく北海道は注意が必要ですが、トンネルの先の光を目指して踏ん張りどころだと思います。本当に皆様、お疲れ様です。

私達、家族会の役員も集まっての会議ができず、電話やメールのやりとりで今年の総会をどうしようかと考え、今年は総会を書面で行うことにさせていただきました。毎年の総会でお会いする皆様に会えず、がんばりましょうと声をかけてくださる方にも会えず、とても寂しいです。

書面での味気ないやり取りに見えるかもしれませんが、皆様の笑顔を思い浮かべて、議案書を役員で検討しました。5 月初旬に全道 8 地区へ議案書と議決権行使書を送付させていただき、今年度の会員数は 86 家族会と報告がありました。その中 83 家族会の議決権が行使されて、不承認は皆無でした。無事に議案が承認されましたので 2019 年度の活動報告と 2020 年度の活動計画をホームページに掲載いたしました。皆様のご協力に感謝申し上げます。先が見えないため、活動予定も立てにくいのですが、皆様で集まることができるようになりましたなら、研修会や皆様の声を集めた活動を少しずつ再開していきたいと思います。なんとか 2020 年度の船出をしていきたいと思いますので、どうぞ皆様、ご協力をお願いいたします。

「距離をとりましょう」と呼びかけられますが、「心のキョリは離れず」に、不明なことはどうぞお問合せ下さい。各地区の役員へ、また道家連のホームページやブログへ、是非とも声をお寄せください。スマホをお持ちの方は、ぜひ QR コードを読み取って「道家連」のホームページをごらんください。

「ほっと 30 号」を発行するにあたり、北海道知的障がい福祉協会様、北海道手をつなぐ育成会様、きょうされん北海道支部様、道北知的障がい児・者家族会様、それぞれの代表者様よりご挨拶をいただき、エールを送っていただき、元気をいただきました。今後、さらにお互いの関係をよりよく発展させ、協力し合って活動していきたいです。本当にありがとうございました。



## \* ご挨拶

一般社団法人 北海道知的障がい福祉協会 会長 荒 洋一 様

北海道知的障がい児・者家族会連合会におかれましては、知的障がいのある方やご家族の悩みや思いを共有し、ご本人の権利擁護や処遇改善に取り組まれており、それぞれの地域における会員の皆様のごこれまでのご労苦に敬意を表しますとともに、日頃から障がい者支援施設をご家族の立場からご支援いただいておりますことに改めて感謝申し上げます。

新型コロナウイルスが蔓延し終息の見通しが持てない状況で、障がいのある方やご家族の皆様も、不安感が増し大きなストレスを抱え日々を過ごされていることと存じます。

就労系事業所では、生産活動収入が大幅に減少し、工賃の減少は利用者の生活に大きな影響を与えております。感染防止の観点からやむを得ずサービスを休止し、利用者やご家族の皆様にご負担をおかけしており、大変心苦しく思っております。

ただ、いずれの施設や事業所におきましても、クラスターを出さないよう細心の注意を払いながら、利用者の生命を守るため、感染防止に万全を期して取り組んでいます。

これからも、利用者の安全を確保し感染拡大の防止に力を尽くすとともに、コロナ終息の後に皆様がこれまでどおりのサービスを安心して利用できるよう、継続して支援していくことに努めます。

協会では、本年度の重点的取組みとして、障がい者の虐待防止、権利擁護事業の強化を掲げ、障がいがあることを理由に差別や虐待を受けることのない暮らしやすい地域づくりを目指し、支援現場の人権意識、支援の質の向上、支援環境の改善の取組みを進めますので、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

家族会連合会の活動の一層のご発展と会員の皆様がつつがなく過ごされますことをお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。



## \* 互いに手を取り合い、頑張りましょう

一般社団法人 北海道手をつなぐ育成会 会長 佐藤 春光 様

北海道知的障がい児・者家族会連合会総会にあたり一言お祝いを申し上げます。

今世の中はコロナウイルスに犯されています。ウイルスにかかったと言うだけで様々な差別や偏見が当事者や家族を襲っています。正面からコロナウイルスと向き合っている医者や病院が大きな赤字を出し継続が危ぶまれています。本末転倒の社会情勢の進行に割り切れない思いがします。

今年の3月に津久井やまゆり園事件の判決が出ましたが、事件の根本に迫ること無く植松被告の死刑判決で終わりました。被害者の実名が伏されるという点でもコロナと重なる現実がありました。

1952年「精神薄弱児育成会」が出来たときにも同じ課題がありました。その当時、世の中はまだ無知と偏見が幅をきかせていました。障害が伝染すると言って特殊学級の設置に反対するPTAや、特殊学級と普通学級との間に鉄条網を張る学校があるなど、今では考えもつかないような時代でした。その時代にいち早く障害者の人権擁護と教育の保障、生活の自立を掲げて育成会が誕生したのです。その構成員は、親は勿論、教育者、心理学者、精神科医、施設職員等幅広い支援者の集まりでした。障がい者の現状に対して、「何とかしたい」「何とかしよう」という『熱い思い』が手をつないだのです。

しかし、残念ながら今も、自分の生活を守るだけで大変な時代が続いています。障がい者の自立と社会参加を掲げて活動することは尚更大変です。今日までご奮闘されてきた家族会連合会の会員の皆さんに、心より感謝と敬意を表します。そして、志を同じくする方々をもっと増やし、一日も早い共生社会の実現のため、共に歩みをすすめようではありませんか。

言葉足らずですが、北海道知的障がい児・者家族会連合会総会に当たってのお祝いの言葉といたします。



## \* ごあいさつ

きょうされん北海道支部 支部長 清水 道代 様

北海道知的障がい児・者家族会連合会の皆様には、日頃より障がい者福祉の充実のために熱心な活動をされていることに対し深く敬意を表します。このたびは、きょうされんの活動にご理解を賜り、この4月からは賛助会員としてご協力いただき、ともに活動させていただくことに心強く思っております。

きょうされんは、1977年に全国16カ所の作業所により結成し現在約1,870カ所、北海道支部は、1988年に道内4作業所5団体が結集して作られ、今年4月で73会員、約620の賛助会員となっています。会員には就労継続支援B型事業所を中心に、A型や生活介護、相談支援事業所、地域活動支援センター、グループホーム、居宅介護支援事業所など、会員の幅が広がっています。あらゆる障がいのある人たちの、“あたりまえに働き、えらべる暮らしを”をスローガンとして、障害者権利条約を地域のみずみに広げていくことにも取り組んでいます。

きょうされんの代名詞は、結成時からの国会請願署名運動です。貴団体の皆様にもご協力いただき、今年で43次となりました。例年であれば、5月中旬に集った署名を携え、国会議員会館まで足を運び懇談の機会をもち、紹介議員になってもらうように直接お願いをしています。残念ながら今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、国会請願行動は中止し、文書のやりとりなどで署名の提出に向けて動いています。私たちの願いが実現できるよう粘り強く今後も邁進していきます。

北海道に対しても私たちは懇談の機会をもち、要望書を提出しています。去年は、工賃(賃金)向上についての仕組みや、福祉・介護の担い手確保のための策を講じてほしいことなど5項目に渡り要望しました。さらに、1月下旬から広がった新型コロナウイルス感染症の影響による生産活動の損失に対する補填や、感染した場合に速やかに適切な治療が受けられるようにすることなど緊急要望書を提出しています。現在は、障がいのある人たちがおかれている影響調査をしているところです。

新型コロナウイルスにより、集まって運動をすることが難しくなってきていますが、これまでの培った運動の知恵を絞って新しい運動の在り方もつくっていければと感じているところです。経済活動が停滞すると、その影響は、まず弱い立場である人たち、障がいのある人たちに向かいます。このような苦境だからこそ、様々な団体と手を取り合い活動していければと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。





## \* 知的障がい児・者の社会参加について

道北知的障がい児・者家族会 会長 樋口 英男 様

北海道知的障がい児・者家族会連合会の会報「ほっと」は、日頃何かと情報不足の私たち家族にとって、知的障がい者を取り巻く貴重な情報提供をいただき、厚く感謝申し上げる次第であります。

また、「北海道知的障がい児・者家族会連合会の要望7項目」も息の長い運動となっておりますが、各家族会が様々な情報を共有しながら、各関係機関等に対する要請活動が何よりも重要であると考えております。

知的障がい者の日常等における社会参加については、充分ではありませんが少しずつ見直されてきている状況ではないかと思っております。

私は、知的障がい児・者及びその家族の幸福を追求するとともに、人として有している権利を守るため、知的障がい児・者の福祉施策の改善を求め、知的障がい児・者の権利を損なうことの無いよう活動することが大切なことと思っております。

昨今、新型コロナウイルス感染拡大防止等で日常生活の活動においても自粛が求められており、知的障がい者の社会参加に対する活動も当面は控える事となりますが、知的障がい者を取り巻く環境は依然厳しいものと認識しておりますので、今後とも各関係機関の方々と情報を共有しながら、要請活動を進めていく事が大事であると考えております。

私たちの願いは、知的障がい者が安心して・安全で・楽しく暮らせる地域社会を作り出すことではないかと思ひ、そのため北海道知的障がい児・者家族会連合会をはじめ、関係諸団体と連携を取りながら、知的障がい者の幸せを最優先して運動を展開していくことが最も重要であり、息の長い要請運動が不可欠であると考えておりますので、今後においても皆様方と共に諸活動を行っていきたいと思ひますので、よろしくお願いいたします。



## \*\* 編集後記 \*\*

新型コロナウイルス禍のような危機は私達に何が大切な  
物事の本質を問うているのかもしれませんが  
今だからこそ じっくり考えたいと思ひます